

広聴広報委員会視察報告概要

【長野県松本市議会】

- 1 視察日時 令和7年8月18日（月）
午後1時15分から午後3時00分まで
- 2 視察先及び視察事項
 - ・視察先 長野県松本市議会
 - ・住所 長野県松本市丸の内3番7号
 - ・視察事項 高校生との交流事業について
議会報について
- 3 参加委員
委員長 石本 亮三 副委員長 山口 浩美
斉藤 かおり、神戸 鉄郎、中井 めぐみ、矢作いづみ、長谷川 礼奈、松本 明信、
谷口 雅典、福原 浩昭、青木 利幸、秋田 孝
- 4 視察の目的
本市議会では、平成21年の議会基本条例制定をはじめ、議会改革を進めてきた中で、議会の広聴広報分野においては、市議会だよりの充実や議会報告会の開催などの取組を中心に、広聴機能、市民参加について充実を図るべく、市民との意見交換を行ってきた。
現在は、より若い世代の意見を聴くため、議会報告会の対象者を一般市民から市内の高校の生徒に変更するなど、若年層をターゲットに広聴広報活動を進めている。
広聴広報委員会の所掌事務「議会報告会等を通して、市民の意見を広く聴き、広報するための企画及び調整に関すること」に関し、議会報告会等のさらなるバージョンアップが図れるよう松本市議会の取組を参考とするため、視察を行った。
- 5 視察の概要
松本市議会 阿部功佑議長による歓迎の挨拶の後、阿部議長から視察事項の説明、質疑応答が行われた。
- 6 概要説明
「松本市議会基本条例に基づく議会改革の取組みについて～高校生との交流事業・議会だよりの発行～」について以下のとおり説明があった。

【議会改革の取組について】

松本市議会基本条例は、平成21年3月に制定、4月に施行され、以来、前文に「先人が築いた歴史と伝統を重く受け継ぎ、これに安住することなく不断の改革に努め、市民の代表として創意工夫を重ね、行動する議会として」と規定されているとおり、不断の改革に取り組んできた。

議会基本条例に基づく施策を具体的に推進するために、政策部会、広報部会そして交流部会、3部会を設置し、取組を進めている。

議会基本条例は、制定以来、5年ごとに見直しを実施しており、令和5年度には地方自治法の改正も踏まえ、大規模な改正を行った。特に議会BCP策定を明文化し、これに基づいて、昨年度、議会BCP策定に取り組んだ。

議会基本条例推進組織である「部会」は、地方自治法第100条第12項に定めるいわゆる協議調整の場として会議規則で設置をしており、政策部会は、政策提言の仕組みや議会運営の充実の検討等を、広報部会は、市議会だよりの発行やホームページなど議会広報全般、交流部会は、議会報告会や意見交換会を含む市民などとの交流をそれぞれ所管している。

令和7年度、政策部会は、1 議会運営における情報通信技術の活用について（4事業）、2 議員研修の企画及び運営について（2事業）、3 議会運営委員会からの依頼事項（3事業）、の9事業に取り組んでいる。

広報部会は、地元ケーブルテレビの番組「委員会レポート」、市議会ホームページ、議会広報誌である「まつもと議会だより」と「こども議会だより」の三つを柱として議会の広報活動を展開している。

交流部会は、各種団体や若者との交流事業を柱として、市民に開かれた議会を目指して取組を進めており、令和7年度は、松本国際中学校の職場体験学習の受入れを実施したところである。

各部会は、年度当初に事業計画案を作成し、議会運営委員会への協議を経て、成案とし、年度の取組を開始する。9月と12月に議会運営委員会へ進捗状況を報告し、進行管理を行いつつ、年度末には、各部会が取組状況を自己評価し、その結果を議会運営委員会に協議して、総括を行うこととしている。この総括結果はホームページで公表をするとともに、翌年度の事業計画に反映をさせ、PDCAを回している。

【高校生との交流事業について】

高校生との交流事業は、平成28年の選挙年齢引き下げを目前にして、松本工業高校側の、教科書と実際の政治課題を結びつけて考えられる事業を行いたいという要請と、若者に関心を持ってもらいたいという松本市議会側の要請が相まって始まったもので、現在まで続いている松本工業高校、エクセラン高校、そして梓川高校との交流事業は、いずれも高校側からの要請により始まったものである。

梓川高校とは、令和3年度から交流を行っており、令和6年度は新しい取組として、中心市街地でのフィールドワークを実施した。

エクセラン高校では、議会側が3年生の特別編成授業に出向き、3年生とフリーテーマでの意見交換を実施した。

松本工業高校は、議会側が1年生の公共の授業に出向いて、フリーテーマでの意見交換を実施した。

3校では、それぞれ年末までに実施をした議会との交流事業について、フィールドワークや意見交換の結果を授業の中で整理をし、まとめてもらっているが、令和6年度は新たな取組として、「振り返り交流事業」を実施した。具体的には、議場に3校の生徒が一堂に

会し、議員に向けて発表する機会を設けたもので、参加した生徒からは、他校の人の考え方や、ある程度支援に興味がある高校生同士で、まち作りや地域作りの意見交換ができてよかった。自分たちで思いつかないアイデアだったり、自分たちはしたことがないことだったり了他校の先輩の発表から知ることができて良かったなどの感想をいただいた。

平成27年度に高校生との交流事業を開始してから、10年が経過したが、この間、平成29年2月定例会には、交流事業を実施した松本工業高校の生徒から、二つの請願が提出された。それぞれ、公共交通や自転車利用など、高校生の身近な問題に関する請願で、本会議では、全会一致で採択された。

これにより、当時の松本工業高校の担当教諭が第12回マニフェスト大賞最優秀シティズンシップ推進賞を受賞されるとともに、現在、複数の高校の「公共」の教科書にも掲載されているものである。

松本市議会では、各常任委員会が毎年度テーマを決め、調査研究を行い、その成果として、市長等に政策提言を行う取組を続けているが、令和6年度中心市街地のまち作りをテーマに調査研究を行った総務委員会が、先ほどの振り返り交流における高校生の発表を踏まえた政策提言を行っている。

【高校生以外との交流事業について】

毎年度、高校生以外の様々な団体からも申し出をいただいて、交流事業を実施しており、令和6年度は、松本大学の学生、そして「いきいき百歳体操」の参加者、松本青年会議所とそれぞれ意見交換会を実施した。

また、最近では職場体験の需要が増えているところで、令和4年、市立中学校から職場体験の受入れ依頼があり、2年生3名を受け入れた。このことが縁となり、令和5年度には、同中学校の総合的な学習の時間に議員が出向いて協力をした。

また、今年2月には議会事務局で初めてとなる、大学生のインターンシップ受入れを行った。先月には私立中学校からの依頼を受け、1年生から3年生までの計14名の職場体験の受入れを行った。その際、議員との意見交換を実施し、中学生との交流も行った。

【議会報について】

松本市議会の議会報は、議会だよりとして、年4回定例会ごとに発行を行っている。編集・校正は広報部会 議会だより編集班と議会事務局において行い、印刷は外部で、配布は松本市の広報誌である広報まつもとと一緒に、町会を通じた全戸配布となっている。

直近の令和7年8月1日号は、6月上旬に編集班会議、中旬から下旬に原稿作成、6月下旬から7月上旬に校正、7月8日校了、その後印刷、7月18日納品、7月下旬に町会へ配送、全戸配布という工程である。

【各事業の課題について】

広報部会事業の課題は、広報活動の三本柱である委員会レポート、市議会ホームページ、議会だよりについて、より多くの市民に見てもらえるかが大きな課題となっている。市議会ホームページについては、閲覧数の伸び悩みについて、対策を検討しているところである。広報活動については、外部評価に取り組んでいるものの、方法としては、中核市議会

議長会の議会報コンクールへの出品に限られており、他の方法がないことが課題となっている。

交流部会事業では、高校生との交流事業について、高校、議会ともに負担が大きく、持続可能性が課題となっている。また、交流事業全般について、意見交換でいただいた意見をどうするか。平成22年度から議会として政策提言に取り組んでいるところであるが、いただいた意見を反映させる仕組みの構築について、課題としている。さらに、意見交換の際に意見交換先に対する議会報告を合わせて実施をしているところだが、不特定多数の市民を対象とした議会報告会を、平成30年度を最後に実施しておらず、これをどうするのか、議会報告会の実施方法の整備が課題となっている。

7 質疑応答

質疑 こどもだよりについて、年2回発行されているということで、そのテーマをどのように選定されているのか。また、どのようにして発行に至っているか。

応答 こどもだよりは年2回発行している。1号目は議会に関する内容で、小学5年生を対象に出している。今年の2号目に関しては、テーマが学校給食ということで、給食センターの取組、「本当に松本市の給食ってこんなにいいんだよ」というようなことをこどもだより編集委員会でまとめ、発行したもの。

毎年2号目のテーマについては、議会だより編集委員会でテーマを設定し、情報収集、それから発行している。

質疑 こどもに議会について関心を持ってもらっているのは本当に素晴らしい取組だと思うが、そのきっかけは。

応答 以前に行ったステップアップ市民会議から一つそういったテーマが出て、作成をした。イラストも、得意な議員がいて、描いている。

質疑 高校では、他の学校から交流等についての話は持ち上がってこないのか。

応答 この3校以外には、今取り立てて、我が校も、というところは来ていない。この3校の担当の先生は“熱い”。いろいろなアイディアを出してくれるので、交流部会担当も一生懸命、それに応えようとしてやっている。もしこれ以上もう1校増やせというと、ちょっときついかと思う。

元々松本工業高校の賞を取った先生が大変熱い思いがあって始まった。今、松本工業高校はこの先生がいないが、その次を受け継ぐ先生がいて続いている。公立高校は異動がある中で、将来的にはどのように高校生との交流を続けていくかということが課題である。

質疑 大学との交流、信州大学などから、話はないのか。

応答 信州大学生からのオファーもあり、行った。大学生になってくると、政治的な部分にも非常に関心が高くなっている。継続にはなっていない。こちらからやりませんかという問いかけは、特には行っていない。もう1校、松本大学とも交流している。

質疑 高校生との交流事業は、負担が大きく、持続可能性が課題ということだが、フィールドワークの他に具体的に何か負担というものがあるか伺いたい。

応答 一つは日程確保をどのようにやっていくかということが非常に大きい。それから、やったことのないことをどうやって作り上げるか、どのように交流事業として成果

を出していくのかということで、精神的な部分とか、時間的な部分、トータルとして負担に感じている。

質疑 事前打合わせはかなりされたのか。

応答 調整いただいて、街中を回る、お店側にも、事前に高校生が電話したり、あるいは事務局も行ったり、その指定されたところに行って、自分たちが選んだところとかへも行って話を聞いたりした。

質疑 交流部会の他市議会との交流、連携方法の検討について。具体的に進めている部分があれば聞きたい。また、高校生以外との交流事業について、いきいき百歳体操参加者との意見交換会があるが、これは具体的にどういった経緯で、こういう場ができたのかを聞きたい。

応答 基本的には姉妹都市との関係が主で、先々週も神奈川県藤沢市議会へ行ってきた。姉妹都市の交流ということで、双方で行き来をしている。去年は藤沢市議会が松本に来て、研修会を行った。今回は、藤沢市議会も平成30年に庁舎が新しくなり、今、松本市も庁舎建て替えということで特別委員会を設けているので、建設時の経過あるいはその後の状況について、話をしてきた。

ほかにも姫路市議会、高山市議会との交流がある。

交流部会の中で、部会員から、そういったところへ集まっている人のところへ行っ
て、交流をしようとなった。どういったところがあるかというような聞き取りをしながら、今回のこの百歳体操は、こちらからお願いをしたという形になっている。

また、青年会議所とは、部活の地域移行について松本市議会との意見交換をしたいとのことで来られた。

こちらから求めたものと先方から申出があったもの、それぞれある。

今後については、基本的には申出があった場合にはそこを検討をする。こちらから何かをということについては、交流部会員の中で、この集まりとは意見交換の交流をしたいというところがあれば、議会からの申込みでやりませんかということをやっていく。

質疑 このいきいき百歳体操は、比較的元気な高齢者の声も聞こうじゃないか、みたいな発想があったのか。

応答 参加者は60歳以上の方々。高齢者の皆さんのお話も聞いてみようということで、一緒にこのいきいき百歳体操をみんなでやった。その後、テーマを決めずにいろんなことをざっくばらんに意見交換を行った。

もう一つの課題に、議会報告会、これをどのように開催していくかということが課題になっている。議会基本条例の中に必要あれば議会報告を行うと記載されているものである。以前は、不特定多数を対象に、ある地区へ行っ
て報告会をやった。直近の議会のそれぞれ4常任委員会あるいは特別委員会もあればその報告を行ったが、やはり、報告というものは市民側がつまらない。意見交換の時間をもっと作ってくれということで当日来ている。

報告会をどういうふうにやっていったら良いかということの一つに、こちらからも不特定ではなくて、不特定だが集まっているところに出向いて、そして、議会報告を、例えば交流部会ではこういうことをやっています、議会改革の中でこういう取

組をしておりますとことを事前に5分、10分説明することも議会の報告であって、そういう中で、いきいき百歳体操と一緒に運動をして、様々に共有していくうちに市民の皆さんも会話がしやすい。そんな状況が作れるのではないかとということで、交流部会が全部回って、全部試行的にやってきた。

質疑 フィールドワークや高校の授業へ出向いたり、振返り交流事業など、いろいろされている中で、学生からの評判とか、議員の手ごたえ的に一番良かったなと思うのは。

応答 松本工業高校へ出向いたときは、一つのテーブルに生徒5、6人と議員が2名。全員と話をする。全員から質問をいただいて、その都度返答したり、あとはアドバイスみたいなこともする。生徒さんに議員と近くなってもらったなっていう実感は毎回ある。その意味ではどれがということではない。どれも終わった後の充実感はしっかりある。

質疑 不特定多数の市民を対象にしての実施が平成30年度を最後に途絶えているとのことだが、どうして途絶えてしまったのか経緯を教えてください。また、高校生以外との意見交換会について、相手方のこともあるが、そのテーマによっては、交流部会員の方たちではなくて、所管の委員会の方が、参加していく、全ての議員さんが関わっていく、ということになっていくかと思うが、その辺はどうか。

応答 終わってしまった理由の一つは、松本市の全35地区を回るということで35回の議会報告会をやってきた。結果として、来られるのは、地区の自治会とか町会の役員の皆さんがほぼ95パーセント。一般的な方は来られない。なおかつ、一部極端な市民の方が来られて、議会に対する批判などがずっと続く。この35地区やった後に、でも、もう1回やろうということで、今度はブロックに分けて、35を12に、今度はもうちょっと広くして、人数も多く来るかなと思ってやったが、あまり変わらない。同じような状況が続く中、議会報告をしても面白くないと言われながら、意見交換をもっと時間をとって、ここにはいろいろな市政批判も入ってくるし、私達は理事者ではないが、市のこれは駄目なのだとかいろんなことをお受けする、というようなことが、後の意見交換を長くした中でも続けました。こういったことが重なり、これは見直しをしていったほうがいいのではないかとということで、コロナということもあり、これはやらなくてもしょうがないね、ということになったかと思う。

議会といろいろな団体との交流については、過去、松本市の町内会、自治会、連合会長の皆さんとの意見交換というようなところでは、議員が、交流部会以外も出て、町内会長さんの集まりですから、市内全体に通じているので、全議員で対応したというようなこともありましたし、委員会でも、各委員会がテーマを決めながら、そこを研究していくところにおいて、いろんな団体とやっていたりもするので、その辺のすみ分けをどうするかということも課題かなと思っているので、必ずしも交流部会員だけということではない。

質疑 所沢市では高校生との交流会に出向くのではなく、市役所のほうに来てもらっている。1学年の生徒を対象に、議員31名全員出席するということで、大変なエネルギーを使われていると感じた。高校からの依頼ということで、どうしてこうなったのか。また、所沢市では、フリートークではなくて、毎回同じテーマでやってきた。

フリートークにおいては、どういうテーマが多いのか。

応答 1 学年全員とやりたいというのは高校の思い。議会へ来ていただくだけの余裕もないし、各教室授業としてやるというからには、ではそちらに行きますということで始まった。

内容は、通学に関すること、今自分が困っていること、というのが多いかもしれない。道路事情、カーブミラー、穴が開いています、通学費が高い、バス路線のバスが少ない。冬はバスが動かなくなったら大変ですとか、何かそういった切実な自分の周辺でというか、自分のこととしての課題の訴えが多いように思う。あとは、議員さんの年取いくらですかとか、そういった質問もある。普段は何してるんですかとか、一番つらいことは何ですかとか。逆に一番楽しいことは何ですかとか、そういった質問もある。比率からいうと、自分の生活、目先の質問が多いかなということです。

質疑 所沢市では、ぜひ自分たちに市の広報を任せてくれないかという積極的な意見を言われた生徒さんがいらっしゃって。今、広報というと、こういう紙面もしかりだが、ネット社会である。ネット社会というと、若いこどもたちのほうが感覚的に長けていると思っている。高校生ではなく、技術系の大学生に任せている自治体もあり、広報をうまくやっているなどと思った。私は、所沢もぜひ高校生に任せたらいいのではと思っているが、こちらではそのようなことがあるか。

応答 内容にもよると思うが、一面を任せてやるというのもいいかと思う。そういう高校生がいていいなと思った。

質疑 議会基本条例施策推進組織、3つの部会が様々な取組をされているということで非常に感動している。議会として、議員として、その役割が、丁寧に、きちんと分けられていて、市議会として進んでいるということに感銘を受けた。その上で、今回のこの高校生の交流事業というところで、これは交流部会が中心ということをつたえたが、各部会が、年度末に施策ごとの成果を記載した議会事業取組評価をしているということだが、この中でこの高校生の交流事業というのはどういう形で評価をされているのか、その中のその成果というものはどういう位置づけをされているのか、お聞きしたい。

応答 高校生との交流事業については、交流部会の中では今後もしっかりと、今3校については基本的にそのまま継続していくという形で今年度も事業化をしっかりと計画の中に入れて、今内容を詰めているところである。この交流事業を止めろという議員はいない。これはもうしっかりと根付いてきたのかなというふうに思っている。

質疑 その上で、私が思うに、今回の高校生事業の中でも大きな成果というのは、高校生による請願、これが大きな成果なのかなと感じた。

要望はたくさん出ると思う、陳情という位置づけになるかはわからないが。それを住民参加のある意味では正式なルートである請願という形で取り組んだのはおそらく先生が素晴らしい方なのだと思うし、こういう形で実際に事業として行っている中での成果としては、高校生が正式にきちんと、その請願という形で、実績を示して来たというのが大きいのかなというふうに感じたが、その辺の意味合いみたいなものをどのようにお考えなのか、お示しいただきたい。

応答 この請願の前に、実はもう1個、請願であったか陳情であったか、松本市にスケートボード場が少ないと。当時そういったことで若者の声が、具体的に議会を動かしたみたいなことなのかと。スケートボード場が、当時としてはしっかりとしたもの整備されたというニュースが大きく出た。そういったこともこの時には話題にしました。そういった時の声が反映されたこともある。

ただこれは、皆さん方がやったらどうかというところを私達が言ったわけではない。これはもう本当に先生が、もうこれ始めて翌年だと思います、次の年にもやろうというふうに先生が、これはしっかりと取り組んでいかれたということだと思いますので、本当にこれは先生の思いというか、高校の歴史として、もう語り継いでいけるということをやったということで本当に素晴らしかったかなというふうに思っている。

質疑 11月に初めて大学生を対象に議会報告会を開催することになっている。大学生と行ったときに、テーマを設けることとした経緯を伺いたい。

それと、これはやはり大学側とのいろんな話し合いなどがあったかと思うが、そういった経緯を一つお聞きしたいのと、一応大学生になると、社会的だとか、政治的に、やはり高校生と比べて知識とか、そういうのは全然違うと思うが、そういったことで気をつけたこととか、またやはり高校生と同じように、フリースペースでやればよかったかなとかそういった感想があったら教えていただきたい。

応答 松本大学との交流は、あるゼミとの交流で、そのゼミは「地域」をテーマに具体的なことにテーマを絞って、「お城について」、「市街地の空き家」、「災害備蓄品」といった具体的なテーマについて、大学側で意見交換、交流を深めたいということであった。かなりいろんなデータを集めてきていた。しっかりと自分たちでいろんなことを調べてきたなという意見交換になりましたので、その意味ではこちら側としても、全部答えられないようなこともあったが、それだけしっかりと勉強して来られたなというふうに思った。

これをフリーでやると何がどう出てくるかわからない中では、そこを私達が何の備えもなくやるとどうなるのかという気はする。

質疑 3部会がすごくうまく分かれて、それぞれ分担しているところに関心があるが、常任委員会と、特に交流部会の中で出てくるいろいろなテーマと、錯綜することはないのか。

常設委員会が活動をして、なおかつこの部会が動いているというのは、すごくハードな議員活動をしているなというふうに、ましてや中核市であるからすごいと思っているが、出てくる課題が、それぞれの常設委員会との情報共有というか、兼ね合いがうまくいっているのかどうか聞きたい。

応答 委員会は委員会ごとにテーマを設定して、委員会の中で研究をしている。

部会は、それぞれ所掌事項がある。政策部会では、テーマをどうこうではなく、政策提案の仕組みの研究ということでやっている。かぶるというようなことは一切なく、テーマはもう委員会、常任委員会の中で決めていく。

質疑 政策部会は議会運営委員会とかなりテーマが重複するのではないか。

応答 部会の中で、いろんなものを検討して、最終的には議会運営委員会への報告をもつ

て、それで決定している。それ以外の様々な進行管理、3つの部会の現状今どうい
うことがあるのかといったことも議会運営委員会でやっている。

質疑 広報誌の発行スケジュールについて、6月議会だと6月上旬に編集班会議をやられ
ていて、皆さんがもう何か書いているのか、チェックなどをされているのか。

応答 例えば、一般質問が終わると、もうその日に事務局が、今回の質問でこの記載する
内容はどれにしますかっていうのをすぐその日に聞きに来て、最低でも一般質問終
わる間には、事務局にお知らせをする。本当に事務局はすごくハードで、事務局の
おかげでできている。

質疑 市議会だよりと市報と、印刷業者は同じか。

応答 議会は議会で。市の広報と同じ日に発行する。

質疑 松本市議会基本条例の第6条の第5項には、「議会は、市民に対し説明責任を果た
すとともに、市民の意見を的確に把握するため、市民との意見交換の場を設けるも
のとする。」と規定され、議会報告会については、第7条の第3項で、「必要に応
じて開催するものとする。」となっている。

所沢市議会基本条例では、「議会報告会を開催するものとする。」と。必要に応じ
てというところはないので、高校生向けでやっても、最初に定例会の報告などして
いるのだが、全く質問が出ない。正直、議会の内容は説明していてもつまらない。
そこが実は、行き詰まっているところである。松本市議会も相当早い時期に議会基
本条例を作ったと思うが、この分け方をした経緯がもし分かれば教えていただきた
い。

応答 平成21年に議会基本条例を作って、その年から報告会が始まった。この時が多分
一番集まった。タイトルが議員定数についてだった。これはすぐ集まりました。そ
れか35地区回ったときには、その直近の定例会の、例えば、総務委員会での審査
の内容や議案に対する報告をやった。15分ずつ時間をとったが、つまらない。全
部やったところ、つまらない。でも意見交換の場が欲しいと言ってそれをまた変え
て、直近の議会の報告をもう少し短くして、意見交換を入れて、1時間か1時間半
にしよう。それで今度12ブロックを回っても、つまらない。もう1点はやはり、
その関心が、例えば私の地区でやるときは私の後援会含めて、それぞれ皆さんそう
ですね、地区の皆さんにやると、自分の後援会の人が集まってきて、やっている。
ただ、まあ義理で来ているようなもので、それだと本当に報告会というのはどうな
のかということがあって、2回回って止まって議論をしようって言ったときにいろ
いろ、二つのパターンを作った。

団体対象でやるパターン、不特定多数の市民を対象としたパターンを作ったが、コ
ロナになってそれが実施できなくなってしまった。コロナが一定のめどがついたと
きに、この数年前に始まって、団体対象のほうを集中的にやってきて、やはりそれ
も交流が一番だった。議会報告会は、本当に直近の議会の案件でいいのかと。

議会活動の報告として、例えば今日みたいな、所沢市議会が来てこんな話がありま
したとか、あるいは2週間前に姉妹都市、藤沢市に行ったときに庁舎のことで研修
をしました、姉妹都市の中で議員との交流も深めましたなど、そういったことでも
いいのではないかとということで、先ほどのいきいき体操のときも、今、議会の改革

を進めてきている中で、推進部会を作っていて、交流部会はこういう活動しています、そういう中で今日訪問をして、こういうのをやりましたという内容でした。報告の前段が。それも議会の報告だからいいのではないか、それも10分、15分でもよくて。そうすると、必要に応じて議会報告会を開催すると書いてあるので、そういった部分で様々な議会活動を、基本的に全戸配布で議会だよりは市民の皆さんの手元に行っているわけですので、それを基本と考えれば、それ以外の、市民の多くの皆さんが関心を持ってもらえるような報告でもいいのではないかと、私は思っていて、去年も一昨年も、交流部会ではそんな話をしてきた。

例えば、条例の改正は市民が聞いていても、一部改正で、こんなのいいよと、そういう話です。議会報告会というと文句を言いたくて来る人もいます。全く平行線なところもあったりする。その辺は、松本市議会も今、一昨年、交流部会で徹底的にやったものの一つとして、不特定多数の部分は、そこに集まって不特定多数の人が集まってる、いきいき百歳体操に行ったら話をしよう、その前に報告会をやろうと、試行でやって、その反応もアンケートで聞いている。

8 委員長所感

早稲田大学デモクラシー創造研究所の全国の議会改革ランキングで所沢市議会は全国3位の評価を頂きましたが、松本市議会も全国4位と大変高い評価を受けた議会です。特に高校生との交流に力を入れています。

まず、松本市議会は所沢市議会とほぼ同じ時期に議会基本条例を制定していますが、その後の取組に特徴があり、政策部会11名、広報部会10名、交流部会10名と、議会全体で部会形式で取り組んでいます。

昨今、所沢市議会のみならず全国の議会で若い世代との意見交流及び情報収集は大きな課題となっています。その点に関して松本市議会は全国のトップを走っている議会と言っても過言ではありません。

松本市議会は、高校生との交流は市内の3校の高校と交流事業を行っています。そして各校の取組の後、振り返り交流事業として3校の生徒が集まって発表会を開催しています。松本市議会の高校生との交流事業を全国的に有名にしたのは、平成29年2月定例会で高校生により請願が出され、全会一致で採択されたことです。このことは今では一部の高校の「公共」の教科書にも高校生による政治参加の事例として紹介されています。

それ以外にも「松本大学」、「いきいき百歳体操参加者」、「松本青年会議所」との意見交換なども行っており、市民による政治参加の場を少しでも多くしていくことに尽力している議会の取組は大変参考になりました。

「市民の政治参加」という点ではまだまだ所沢市議会は足元にも及ばないと痛感しました。その他にも色々意見交換ができ、あっという間の1時間45分の有意義な視察となりました。

【長野県伊那市議会】

- 1 視察日時 令和7年8月19日（火）
午前10時00分から午前11時30分まで
- 2 視察先及び視察事項
 - ・視察先 長野県伊那市議会
 - ・住所 長野県伊那市新田3050番地
 - ・視察事項 高校生との意見交換会、高校生の議会傍聴について
議会報について

3 参加委員

委員長 石本 亮三 副委員長 山口 浩美
斉藤 かおり、神戸 鉄郎、中井 めぐみ、矢作いづみ、長谷川 礼奈、松本 明信、
谷口 雅典、福原 浩昭、青木 利幸、秋田 孝

4 視察の目的

本市議会では、平成21年の議会基本条例制定をはじめ、議会改革を進めてきた中で、議会の広聴広報分野においては、市議会だよりの充実や議会報告会の開催などの取組を中心に、広聴機能、市民参加について充実を図るべく、市民との意見交換を行ってきました。現在は、より若い世代の意見を聴くため、議会報告会の対象者を一般市民から市内の高校の生徒に変更するなど、若年層をターゲットに広聴広報活動を進めています。

広聴広報委員会の所掌事務「議会報告会等を通して、市民の意見を広く聴き、広報するための企画及び調整に関すること」に関し、議会報告会のさらなるバージョンアップが図れるよう伊那市議会の取組を参考とするため、視察を行った。

5 視察の概要

伊那市議会田畑議長による歓迎の挨拶の後、田畑議長から視察事項の説明、質疑応答が行われた。

【高校生の議会傍聴・意見交換会について】

《意見交換会と政策提言》

以前は8、9月に意見交換会を行っていたが、9月の政策提言に間に合わせるため、6、7月に開催時期を変更した。5月に各委員会の構成変更があるため、かなり大変であるが、前年度の委員会でテーマを決めることにより、対応している。

《開催までの経緯》

平成30年の市議会議員選挙が無投票になったことを受け、市民に市議会に対する興味を持ってもらうためどうするべきかという検討を1年かけて行った。その中で「魅力ある議会づくり検討会」を平成30年6月に設置し、若い世代、特に高校生の議会への関心を高めるために、以下の4校に対して高校生の議会傍聴、傍聴した高校生との意見交換会を開始した。

《開催状況》

① 伊那西高等学校（私立）

令和元年6月、伊那西高等学校に上述の経緯を説明し、議会の傍聴に来てもらうこととなった。7月には議員の代表者が高校に赴き、高校生との意見交換会を行った。令和2年度と令和3年度は新型コロナウイルスの関係で活動ができなかったが、令和4年12月には、生徒による議会傍聴、進学コース2年生32名、教員1名、議員の代表10名による意見交換会を行った。

令和5年6月、進学コースの2年生23人が傍聴し、翌月には高校で意見交換会を行った。

私立高校の良い点は、生徒が変わっても先生が転勤にならないため、担当の先生と話を進めやすい点にある。

また、実際に高校に赴くことにより、高校の雰囲気を知ることができる。現時点では伊那西高等学校のみであるが、他の高校にも赴きたいと考えている。

② 伊那弥生ヶ丘高等学校（公立）

令和5年3月、1、2年生の生徒会役員13人が来庁した。生徒たちが自分たちで課題を見つけ、その課題に対しての色々な取組や勉強を成果録にする探究学習の発表や懇談会を行った。

③ 高遠高等学校（公立）

令和5年6月、議会傍聴後、生徒たちが高遠高校の生徒会の取組についての発表と意見交換会を議場で行った。グループ懇談では、生徒のグループに議員が必ず入るが、テーマについては、高校生たちに決めてもらった。生徒会3年生13名、教員1名、議員20名が参加した。

④ 伊那北高等学校（公立）

令和5年8月、学際コースの2年生32名と教員4名が来庁し、探究学習発表と意見交換会を行った。探究学習の内容に対して、議会としての意見も求められた。グループ懇談では、高校生の考えた防災ゲームを議員と体験するという内容であった。

《意見交換会当日の基本的な流れ》

会場：議場

(1) 生徒の代表が様々な取組について発表

(2) 5、6人の人数に分けたグループに正副議員が入り、グループ討議

(3) 各グループの議員の代表がグループ討議の発表

(4) 参加した生徒全員による1分間スピーチ（感想発表）

《開催しての感想》

高校生の真剣に取り組む姿に感動した、高校生の声を直接聞ける良い機会になった、今後も生徒と積極的に行っていきたいという議員の感想があった。また、高校生からも、緊張したが、話をしているうちに自分の意見を言うことができ、伊那市のことを知ることができた、議員に親身になって悩み事を聞いてもらえてアドバイスをもらえた、などの声があった。

高校生を呼んで最後に必ず「将来議員になってくださいね」という合言葉を言っている。中には「将来政治家になりたいと思った」という高校生もいた。

《開催しての成果》

① 高校生からの意見・提案

高校生から、意見交換会のような場を生徒の方から申入れできるようになると良い、学校に市への意見箱を置いたら政治に興味を持つのではないか、災害時に校舎を避難所として利用することや、運営スタッフとして高校生が参画しては、などの提案をもらっている。

②高校生による請願の提出

また、意見交換に参加した高校生が請願を提出してくれた。請願の提出後、社会委員会で検討し、全体会の中で採択するという流れを踏み、昨年の12月に市長宛に社会委員会として提案をし、現在具体的に市が動いている。

③高校生からの要望を執行部へ

意見交換会の中で、通学路の外灯増設の要望があったため、経済建設委員会の委員がすぐに現地確認を行い、執行部へ改善要望の提出を行った。

《開催後の議会の対応》

高校生の意見交換会で出た意見を議員が報告書にまとめ、各高校に提出している。生徒から出された意見に対する伊那市議会の検討結果というフォーマットが決まっており、市の担当部局に市としての考え方を確認した後、市議会としての考え方を記載し、学校に提出する。

できるだけ多くの高校に意見交換会に参画してもらいたいため、高校生向けの意見交換会のリーフレットを全校に配っている。

【中学生を対象としたイベント】

伊那市の全中学2年生を対象にした「中学生キャリアフェス」を開催している。

市内の企業約80社が参加し、市内の中学2年生全員を対象に、1日かけて仕事内容の説明を行うイベントである。将来の進路に繋がる学びの場として毎年開催している。

令和5年度には、市議会のブースとして「中2興味あるある選挙」の出展を行った。簡易的な投票を行ってもらった後、議員との懇談を行い、議会の仕事内容や議員の紹介を行った。

また、「伊那市議会取扱説明書」（通称：とりせつ）を配布したり、「18歳になったら選挙に行こうね」、「市議会議員になることが、君の夢になったらいいな」という合言葉を伝えたりしている。

【市民と議会との意見交換会について】

令和7年度は以下のとおりに実施した。

《タイトル》「議員とトーク」

《開催時期》5月～7月（全6回）

《参加人数》延べ82名

《開催方法》ワークショップ形式で開催。

《開催後の対応》

出された意見を市議会だよりに掲載するとともに、委員会ごとに整理し、広聴広報委員会で資料にまとめる。その後、市の担当部署にまとめた資料を送り、担当部署としての考えや対応可否の回答をもらうようにしている。最終的に報告書にまとめ、ホームページや冊子として配布を行っている。

あまり多く政策提言を出しても達成できないということで議会としてもかなり絞り、委員会でまとめたものを議員全員で熟慮し、政策提言に結びつけている。

【市議会だよりについて】

伊那市議会は広聴委員会、広報委員会とで分かれており、市議会だよりは広報委員会が所管である。広報委員会は、副議長が委員長を務め、各委員会の副委員長が委員となり構成されている。

市議会だよりは、以前は市報と別冊であったが、別冊だと読んでもらえないという意見があったため、現在は市報に議会だよりのページを設けている。

発行スケジュールは、直近の8月号を例にすると、6月19日に出稿、7月11日に最終確認を行い、7月25日に発行となる。

ページ数は多くなく、定例会があった月は一般質問をした個人の記事を載せているが、定例会のない月は1ページか2ページでまとめている。

6 質疑応答

質疑 意見交換会に参加したことを大学受験などに生かすことができるシステムはあるのか。

応答 進学校では推薦入学の中で探究学習をしていると有利になるという話を伺っている。

質疑 大学生、中学生との意見交換会は検討されているのか。

応答 今のところ大学生と意見交換会を行う予定はない。中学生についても、キャリアフェスを開催しているため、その他に開催する予定はない。

質疑 一般向けの議会報告会など意見交換を行う場は開催されているのか。

応答 一般向けの議会報告会の開催は行っていない。しかし、各地域の意見交換会ではあまり多くの人に来ていただくことができないため、分野別意見交換会の開催を開始している。分野別意見交換会とは、今までどおりの地域単位の意見交換会とは異なり、商工会の建設部会、伊那市商工会の建設業者や民生児童委員、教育委員の方々など、対象者を専門分野別に分けて行うものである。地域別、分野別の意見交換会を行うことでより多くの意見を取り入れるようにしている。

質疑 高校生の傍聴は、授業の一環として行っているのか。

応答 高校生は授業の一環で傍聴にきている。高校によっては生徒会役員の生徒だけであることもあるが、その場合も授業の時間内のため授業の一環である。

質疑 中学校2年生対象のキャリアフェスについて、主催や運営について伺いたい。

応答 教育委員会も補助を行うが、主となる実行委員会は、中学2年生の各中学代表が集まって立ち上げている。実行委員会の中に教育委員会も含まれており、全体のマネジメントは教育委員会が行っている。

質疑 参加する企業については市の商工部門などが音頭をとっているのか。

応答 企業の参画を得ることについては、上伊那経営者協会や商工会議所が音頭をとっているが、内容については子どもたちが決めている。

質疑 未来に向けて投票の呼びかけ等を行うということで、「18歳になったら投票に行こうね」と「市議会議員になることが、君の夢になったらいいな」というこの合言葉を使われているが、伊那市の投票率はどのくらいなのか。

応答 前回の市議会議員選挙は62.5%である。市長選と市議会議員選挙が全く同じタイミングであることも、投票率が高い理由であると推測する。

質疑 高校生との意見交換会の報告書について、事務局職員が4人のみである中で、部

局の考え方とのすり合わせ等はどのように行っているのか。

応答 意見交換会で出た意見については、事務局の職員を含む委員会で全部まとめている。委員会の中で、テーマの重複を防ぐための整理や、委員会ごとのテーマに振り分けを行っている。その後の執行部の方との調整は事務局にやってもらっている。

質疑 「とりせつ」ができた経緯について伺いたい。

応答 市議会議員選挙が無投票になってしまったことで、いろいろと検討した中で、やはり興味を持ってもらいたい、何で惹きつけようかと考えた結果「とりせつ」の作成に至った。議員の顔も覚えてもらわなくてはならないので、顔写真を入れる等の工夫をしている。また、議場の前に常時設置し、傍聴に来た人に持っていてももらっている。議会事務局の入口にも置いてある上、ホームページにも掲載している。

質疑 高校生の方たちの積極性はどの程度なのか。ある程度向上心や意欲がある人たちが集まって意見交換会に参加されているのか。

応答 参加する生徒については、特に指定しておらず、学校側が決めている。学校によっては、進学コースの生徒や生徒会の役員のみで来られる学校もある。来てくれる学校はみな探究学習をしっかりと教育されている学校で、生徒自身がテーマを決め、それに対する議員の意見が聞きたいなど、向上心をもっていることは事実である。また、学校以外に発表する場がないので、ぜひ発表を聞いてもらいたいという意見もあった。ただ、クラス単位できているため、全員が全員希望して来ているわけではないと考えている。

質疑 担当の学校の先生の意欲の高低により影響される部分もあるのではないかと推測するが、継続的に行っていくための工夫などはあるのか。

応答 生徒から聞かれたことに対してアドバイスはできるが、それ以外はこちらからはあまり干渉していない。学校の方針や、私立と公立の違いなどもある上、何より先生たちは生徒と一番接点のある方と認識しているため、先生の考え方にお任せしている。ただ、内容については、生徒たち自身がどのようなテーマで行うかなどを決めているのではないかと考えている。

質疑 市民向けの意見交換会「議員とトーク」では、ワークショップ形式で行うと意見がかなり多く出てくると推測されるが、記録の方法や政策提言と繋げる際の最終的な処理作業について伺いたい。

応答 各テーブルに議員が2人必ず入り、1人が司会進行を、もう1人が書記を務める。ワークショップ形式で付箋に書いて貼ってもらった意見以外の意見も含め、出た意見全部を書記が記録する。それを全部持ち寄ってA B C Dランクで振り分けを行い、担当する委員会ごとに整理する。それをもとに集約しある程度の数に選別を行った上で執行部側に回答を求める。

質疑 8月号の市報を拝見すると、31ページから一般質問が載っているが、6月議会は議長以外の全議員が一般質問をされたということか。

応答 基本的には全員している。

質疑 一般質問のページにあるQRコードはY o u T u b eに繋がっており、一般質問

した翌日には動画がアップされると伺ったのだが、実際のところ事務的に労力を要するのか。

応答 今年の3月に議場のシステムを変更し、動画をすぐにSDカードに入れられるようになった。そのため、SDカードから取り込んだ動画の前後を切り取ってYouTubeへあげるのみの作業であり、それほど手間はかからない。

質疑 YouTubeは質問の部分のみ載せているのか。

応答 答弁を含む全部である。

8 委員長所感

視察テーマは「高校生の議会傍聴、高校生との意見交換会について」。

伊那市議会では平成30年の市議会議員選挙が無投票となったことから、全議員参加の「魅力ある議会づくり検討会」を設置しました。議会への関心を高めるための方策として、若い世代、特に高校生に議会への関心を高めてもらうために高校生の議会傍聴、高校生との意見交換等の企画を決定しました。

伊那市議会でも令和6年2月定例会では市内の高校生から請願が出され、全会一致で採択された経緯があります。中学生向けには市内の中学2年生全員を対象に「中学生キャリアフェスが開催され、興味があること4つを選択肢とした選挙も行われました。市民と議会との意見交換会「議員とトーク」も開催されています。

課題としては、①政策提言への反映、②参加者数、③開催方法の工夫が挙げられていました。いずれにしても意見交換会などで出されたご意見への対応とその後の政策へどのように結びつけていくのかがポイントの様です。

伊那市議会では政策提言への年間スケジュールもきちんと確立していました。

伊那市には移住される方も多く、新しく住民となった方への対応も議会は求められています。人口規模、都市部からの距離は違えども、所沢市にも大いに参考となる視察となりました。